

請願第6号 国の責任による少人数学級の推進を求める請願について
日本共産党江南市議団を代表して意見を述べます。

新日本婦人の会江南支部より出されたこの請願について厚生文教委員会では賛成少数で不採択となりましたが、ほぼ同じ内容を含む尾北地区教職員組合から出された「定数改善計画の早期策定・実施と義務教育国庫負担制度の堅持及び拡充を求める請願書」は採択となりました。

議案の採決には一時不再議ということがありますが、市民が提出する請願にはこの一時不再議は適用されないこととされています。なぜなら市民は請願を提出される際に他にどんな請願が出されているか知らされないことがないからです。

今回少人数学級を求める請願が2団体から出されたということは、それだけ少人数学級を求める声が大きくあるということで、1つの請願を採択したから同じような請願は採択する必要がないということにはなりません。文科省や政府の骨太政策でも少人数学級の必要性や実行が言われ始めている今こそ多くの声を地方から意見書としてあげていくことが必要であり、保護者、市民の立場からの請願も採択し、意見書として提出するべきと考えます。

厚生文教委員会の委員の反対する理由の中で、20人程度がよいとの検証がされていない。むしろ人数は多い方が切磋琢磨されて学力が伸びる、保護者の中には少人数を望んでいない方もあるとの意見を述べられた方もありましたが、それならなぜ教職員組合の少人数学級実現のための定数改善計画の請願に賛成されたのでしょうか。同じ内容の請願の一方には賛成でもう一方には反対というのは矛盾した態度と言えるのではないのでしょうか。

また新日本婦人の会の請願にはいじめや不登校などの課題など少人数学級の必要性の具体的な内容が述べられていないからという理由で反対された委員もいましたが、様々な課題を抱えた子ども達が増える中という文言でその点についても触れており、何より今コロナ禍の中子ども達健康・安全のためにソーシャルディスタンスをとるため少人数学級が必要であるとの早急な実現を訴えているところが今切実な請願となっているところではないのでしょうか。

勿論新型コロナウイルス感染症が収束したからといって少人数学級が必要でなくなるわけではないことも意見陳述で明らかとなっています。

市議会は市民の声を代表して議論し、市民の声を国に届ける機関です。ぜひ国に意見を届けてほしいという願いをもって意見陳述や傍聴に来られた市民の願いをつぶすことなくこの請願も採択し、意見書を国にあげていくという江南市議会の姿勢を市民に示すべきであると考えます。

市民の代表としての議員の皆さんの請願採択への賛同をお願いします。